

# スポーツ川越

発行 川越市体育協会



## 川越市における生涯スポーツの振興

川越市教育委員会 教育長 山浦秀男

日頃より、川越市体育協会の皆様におかれましては、本市生涯スポーツの振興に際し、多大なるご尽力をいただいていることに対し、感謝申し上げます。

さて、今日の我が国では、急激な社会環境の変化により、人々の生活様式にも様々な変化が現れています。また、車の社会の進展、科学技術の高度化・情報化は、精神的ストレスの増大、体力や運動能力の低下を招き、心身の健康に悪影響を与えているともいわれています。

そのような状況の中、生涯スポーツは、誰もが生涯の各時期にわたって、それぞれの体力や年齢、目的に応じて、いつでもどこでも主体的にスポーツに親しむことであり、このような生涯スポーツ社会の実現が、今後の重要な施策課題となっております。

そこで、本市における生涯スポーツの振興を図るため、以下の重点事項を設定しました。

- 一 生涯スポーツ振興計画の推進につとめる。
  - 二 子どもから大人まで一緒に、生涯をととしてスポーツを楽しむ、総合型地域スポーツクラブの設置・育成につとめる。
  - 三 スポーツ教室、講習会並びに各種大会の開催について改善を行い、生涯スポーツの推進につとめる。
  - 四 各種スポーツ団体の組織の充実とスポーツクラブの育成につとめる。
  - 五 スポーツ指導者の養成と資質の向上を図り、子どもを含めた地域スポーツの推進につとめる。
  - 六 体育施設の効果的な活用を図るとともに、スポーツ施設の整備につとめる。
  - 七 学校体育施設は学校教育に支障のない限り積極的に開放するようにつとめる。
- これらを「平成十八年度川越市教育行政の方針と重点」に位置付け、本市における生涯スポーツの振興を推進する所存でございます。
- また、その実現に向けては、川越市体育協会の皆様方をはじめとし、各スポーツ団体の関係者の皆様方のご理解ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

# スポーツ文化の祭典「第2回川越市生涯スポーツフェスティバル」

平成十七年十一月三日(祝)、川越運動公園を会場として、「第2回川越市生涯スポーツフェスティバル」が盛大に開催されました。「川越市生涯スポーツフェスティバル」は、本市において二十二年間開催された「川越ウォークソン大会」に替わり、市民の誰もが気軽にスポーツに親しむことができ、生涯スポーツの振興に寄与する本市最大のスポーツイベントとするため、内容を刷新し、平成十六年十一月三日に第一回スポーツフェスティバルが開催されました。

今回は、開催二年目を迎え、さらに内容の充実を図るため、近年市民の興味関心が高い体力測定コーナーを新たに設け、前回開催したウォーキング、綱引き、ふれあい(スポーツ体験)の各コーナーに加えました。

特に、ふれあいコーナーに関しては、参加スポーツ団体が前回よりも三団体増え、コーナーの充実を図ることができました。

「第2回川越市生涯スポーツフェスティバル」の概要については、以下のとおりです。

【目的】子どもから大人まで、市民の誰もが気軽にスポーツを体験し、スポーツの楽しさを味わうとともに、市民相互の交流を図る。

【主催】川越市・川越市教育委員会・毎日新聞社

【主管】川越市生涯スポーツフェスティバル実行委員会

【期日】平成十七年十一月三日(文化の日)

【会場】川越運動公園

【主な日程】

- ・開会式 八時三十分
- ・各コーナー開始 九時三十分
- ・閉会式 十四時三十分

【目的】子どもから大人まで、市民の誰もが気軽にスポーツを体験



【参加対象】川越市内外を問わず子どもからお年寄りまで

【参加費】無料

【内容】次の四部門を柱とする

- ・ウォーキングコーナー
- ・綱引きコーナー
- ・ふれあいコーナー
- ・体力測定コーナー

その他に、山村女子高校ダンス部・川越市吹奏楽団によるアトラクション、抽選会、模擬店の出店がありました。

参加状況

ウォーキングコーナー		綱引きコーナー		ふれあいコーナー
一般	535名	小学生	24チーム(287名)	17コーナー
親子	378名	中学生	11チーム(138名)	1,150名以上
小計	913名	一般	11チーム(147名)	体力測定コーナー
		小計	46チーム(572名)	193名
合計			2,828名以上	

※ふれあいコーナー参加者数は、スタンブカード保持者数



【ウォーキングコーナー】

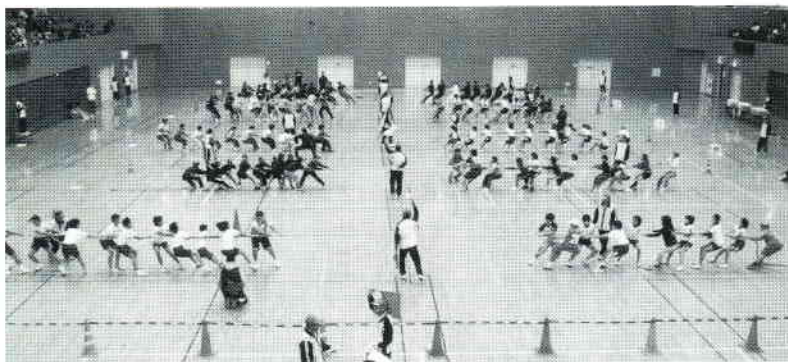
【開催時間】九時三十分～十二時

【参加部門】一般の部・親子の部  
小学三年生以下の子どもは、保護者同伴で親子の部に参加。

【コース】陸上競技場一般道(伊佐沼方面)・陸上競技場五キロメートル

【内容】「正しく・美しく・速く歩こう」をテーマに行う。

【表彰】完歩した参加者全員に参加賞、各部門十組以内にスタイル賞を授与。



◎ 綱引き大会

【開催時間】九時三十分～十四時  
 【会場】総合体育館メインアリーナ

【参加部門】小学生の部（四年生以上）・中学生の部・一般の部

【内容】トーナメント方式による勝ち抜き戦。

【チーム編成】選手は男女混合十名（内男子七名以内）。交代要員は五名以内。

【表彰】参加者全員に参加賞、一～三位までのチームに賞状賞品を授与。

◎ ふれあいコーナー

【開催時間】九時三十分～十四時  
 【内容】スポーツ体験コーナー  
 【対象】幼児から高齢者まで自由参加。

● 陸上  
 〈会場・時間〉陸上競技場  
 十二時三十分～十四時  
 〈参加者数〉二〇四名

● ラグビーフットボール  
 〈会場・時間〉陸上競技場  
 十二時三十分～十四時  
 〈参加者数〉六九名

● ティーボール  
 〈会場・時間〉陸上競技場  
 十二時三十分～十四時  
 〈参加者数〉三〇九名

● グランドボウリング  
 〈会場・時間〉陸上競技場  
 十二時三十分～十四時  
 〈参加者数〉一八〇名

● ソフトバレーボール  
 〈会場・時間〉総合体育館サブアリーナ  
 九時三十分～十二時  
 〈参加者数〉二〇八名

● バドミントン  
 〈会場・時間〉総合体育館サブアリーナ  
 九時三十分～十二時  
 〈参加者数〉二四二名

● 卓球  
 〈会場・時間〉総合体育館サブアリーナ  
 九時三十分～十四時  
 〈参加者数〉八七八名

● マレットゴルフ  
 〈会場・時間〉自由広場  
 九時三十分～十四時

● テニス  
 〈会場・時間〉テニスコート  
 九時三十分～十四時  
 〈参加者数〉二六一名

● グラウンドゴルフ  
 〈会場・時間〉自由広場  
 九時三十分～十四時  
 〈参加者数〉二九七名

● 剣道  
 〈会場・時間〉総合体育館武道場  
 九時三十分～十四時  
 〈参加者数〉二〇四名

十二時三十分～十四時  
 〈参加者数〉三〇〇名

● ビームライフル  
 〈会場・時間〉総合体育館二階フロア  
 九時三十分～十四時  
 〈参加者数〉二六〇名

● なぎなた  
 〈会場・時間〉総合体育館武道場  
 九時三十分～十四時  
 〈参加者数〉二〇四名

● 剣道  
 〈会場・時間〉総合体育館武道場  
 九時三十分～十四時  
 〈参加者数〉一七二名

● 弓道  
 〈会場・時間〉総合体育館弓道場  
 九時三十分～十四時  
 〈参加者数〉三三一名

● ソフトテニス  
 〈会場・時間〉テニスコート  
 九時三十分～十四時  
 〈参加者数〉二六一名

● テニス  
 〈会場・時間〉テニスコート  
 九時三十分～十四時  
 〈参加者数〉二九七名

● グラウンドゴルフ  
 〈会場・時間〉自由広場  
 九時三十分～十四時  
 〈参加者数〉二九七名

● マレットゴルフ  
 〈会場・時間〉自由広場  
 九時三十分～十四時

● テニス  
 〈会場・時間〉テニスコート  
 九時三十分～十四時  
 〈参加者数〉二六一名

● グラウンドゴルフ  
 〈会場・時間〉自由広場  
 九時三十分～十四時  
 〈参加者数〉二九七名

● マレットゴルフ  
 〈会場・時間〉自由広場  
 九時三十分～十四時

● テニス  
 〈会場・時間〉テニスコート  
 九時三十分～十四時  
 〈参加者数〉二六一名



◎ 体力測定コーナー  
 【開催時間】十二時三十分～十四時十五分  
 【会場】陸上競技場雨天走路及び陸上競技場東側道路  
 【対象】二十歳～六十四歳の健康

〈参加者数〉五五〇名  
 ● インディアカ  
 〈会場・時間〉自由広場  
 九時三十分～十四時  
 〈参加者数〉四七七名

● ペタンク  
 〈会場・時間〉自由広場  
 十二時三十分～十四時  
 〈参加者数〉三一六名

な

【種目】握力・上体起こし・長座体前屈・反復横跳び・立ち幅跳び・急歩

前回の生涯スポーツフェスティバルと比べ、参加者数が大幅に増え、約三、五〇〇名の市民の方が、秋空の下、心ゆくまでスポーツを楽しんでいただきました。



### ソフトテニス連盟

川越市ソフトテニス連盟は、歴史も古く創設七十年を迎えます。現在、16のクラブがあり延べ三百三十名の老若男女が活動しております。ジュニアの育成から、関東大会・全国大会への出場や入賞にむけて、各研修会や合宿など行っております。

この競技の特徴は、ボールがやわらかいため、肩やひじへの負担が少なく、生涯スポーツに最適であることです。高齢者も、大会に目標を定めて参加する者や健康維持のために、無理はしないでマイペースでボールを追う者もおります。大会も、一般の部や成年の部以外にも、シニアの部として、45歳、50歳、55歳、60歳、65歳、70歳、75歳の部があり、さらにミ



ックスや夫婦の大会なども開催されております。

多くの方にテニスコートに足を運んでいただきたいのですが、何と言ってもコート数が足りない状況です。各クラブも、利用料金の高い民間のテニスコートを使用したり、やはり一番の課題はコートの確保のようです。

ますます高齢化社会を迎え、健康な老人を増やしていくには、テニスコートに限らず、スポーツ施設を整備していくことが、一番の近道ではないだろうか。

### 柔道連盟

川越市における柔道の歴史は古く、明治末期に天神真楊流柔術から小川次良が継承し高沢町に講道館柔道の道場を開設。大正十年に故・前田潔が川越中学(現)川越

高校で柔道部を指導。同年川越市有段者会を作り、初代会長に小川次良が就任し柔道の発展に大きな推進力となった。当時は稽古をする場所がなく、寒稽古・暑中稽古を川越城跡の武徳殿で実施した。青少年の修業者も増加し柔道界全体が活況をみせた。昭和十八年頃から終戦後の混乱で中断を余儀なくされたが、昭和二十五年に文部省よりスポーツ柔道と認可され、さらに中学校の正科と柔道が認定

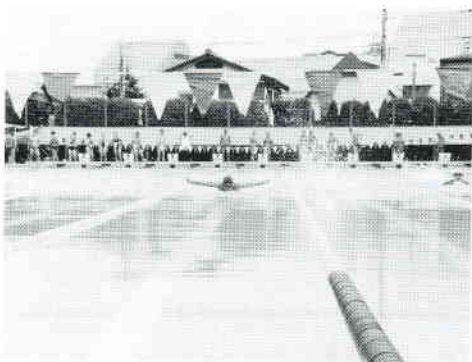


されたことにより目覚ましい隆盛をみる。現在の実績は先般の国民体育大会にて、五十八回静岡県、五十九回埼玉開催に二年連続総合優勝し天皇杯皇后杯を獲得。団体史上初めての快挙を成し遂げた。個人では平成十七年度川越市内の中学生が三名県体で優勝して埼玉県代表として全国中学柔道大会(名古屋)に出場し活躍。小学生では五年生女子が埼玉で優勝し埼玉県代表として全国小学生柔道大会(秋田県)に出場。鳥取県、熊本県に勝つ快挙を致しました。柔道は強さばかりでなく、礼節を守り他人に迷惑をかけぬこと。返事・挨拶・後始末の三つを常に指導し、将来すばらしい柔道人に育つよう指導を行ってゆきたい。

### 水泳協会

昭和23年川越市体育協会発足と共に川越遊泳協会(昭和3年設立)を改め川越水泳協会と名称変更し市民皆泳を目指し今日まで連綿と活動を続けている。

昭和26年に市民待望の市営プールが完成、これを機に協会の活動がさらに充実していく。今日ではオアシスの室内プール、民間のプールが徐々に建設され、その利用者数を見るとスポーツ施設の中では群を抜いている。市民体育祭の参加者数を見ても1300名前後を有し、特に近年は高齢者・女子の参加が激増、従来の大会方法では対応できなくなったためマスターズ方式を取り入れ年齢別の大会となっている。



灸されて来たものと思われる。何時でも個人でも楽しめしかも健康増進に役立つという水泳の特性が認識されたものであろう。中核都市34万川越市として大会のもてる市営プールの充実が切望されるところである。今後協会は施設の充実及び市民皆泳を目指して水泳の普及に努めたい。

### ボーリング連盟

私達ボーリング連盟が協会加盟できたのが昭和60年です。ご存知のように今から35年程前ボーリングは国土全体を大ブームで包みましたが、衰退も早く昭和50年代に入り関係各位の努力により施設の後退等にもめげず少しずつ振興を目指してきました。日本でのアマチュアボーリング組織として確固たるJBC(全日本ボーリング連盟)が団体正式種目に認可されるべく努力していた時を同じく、私達の連盟もスポーツボーリングをアピールすべく市体育協会への加盟を熱望し、本旨を切々と訴え待望の入会が叶いました。

その後連盟は、前述のJBCの下部組織として県連へ川越支部として加盟。幸いJBCも昭和62年沖縄国体の公開競技の翌年43回大会には正式種目に加えられました。

本日より  
の展望



総務・競技・教育の3部門により、広くスキーを楽しむ仲間の活動を支えています。

競技部門は、市民体育祭から国体などの競技会への参加と選手の強化を主な活動としています。

教育部門では、S A J指導者により、初心者から上級者まで、基礎技術の向上を目指し、級別テストや講習会などの機会を数多く設けるように活動をしています。

各クラブ毎にも事業を行っていますが、連盟の主な事業として、

- 12月 中上級者強化合宿Ⅰ  
ジュニアスキー教室Ⅰ
- 1月 県体選手強化合宿  
技術強化合宿
- 2月 市民スキー講習会  
ポール講習会
- 市民体育祭スキーの部
- 3月 ジュニアスキー教室
- 4月 中上級者強化合宿Ⅱ

## スキー連盟

スキーというスポーツは、家族でも、友達同士でも、誰とでも一緒に楽しめます。

川越市スキー連盟は、楽しむスキーからレースまで、十一の個性的なクラブで構成された組織で、



## 特集・団体 21世紀

などが実施されます。

子供から高齢者まで、生涯楽しめるスポーツとして、これからも幅広くスキーを楽しむ仲間を支援していきたいと考えています。

## グラウンドゴルフ協会

グラウンド・ゴルフは、国の生涯スポーツ推進事業として、鳥取県泊村教育委員会において、昭和58年に誕生しました。グラウンド・ゴルフは、子供から高齢者まで誰もがいつもう明るい笑顔と歓声とともに楽しめるスポーツであり、「豊かな心」と「生きる喜び」を創造することにふさわしい、真の生涯スポーツといえるものです。

日本協会は設立以来、私たちに何よりも大切な「からだところの健康」のために、その一助としてグラウンド・ゴルフが、より多くの方々に親しまれるよう、普及活動を推進してきました。

川越市グラウンド・ゴルフ協会は平成6年に結成、平成14年に川越市体育協会に加盟しました。平成15年9月には、安比奈親水公園において、八都県から一七〇二名の参加を得て、第11回関東大会を開催しました。今年の5月には県

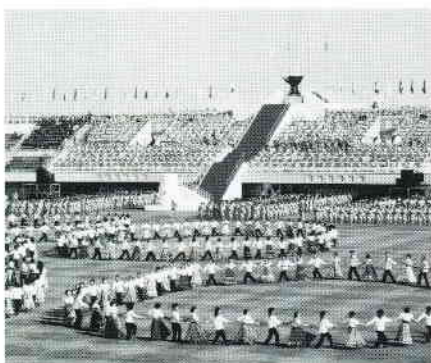


下二〇〇〇名の愛好者を招いて埼玉県大会が開催されます。大会運営の際は、大澤会長が軸となり、スタッフの役割分担を明確にし、常にコミュニケーションを図るよう努めてきました。現在の登録会員は設立時の四倍以上の一四三二名を数え、この普及、発展については、会員一人ひとりの仲間づくりの成果と考えております。

## レクリエーション協会 フォークダンス連盟

昭和五十四年四月創立し、現在四つのサークルで活動しています。フォークダンス(通称FD)は学校の体育祭などで踊った程度の人が多く、知れば知る程奥深いことに驚かされます。

FDは外国で生まれ古くからその土地で民族性豊かに伝承され、日本に広められた踊りです。一昨年開催された埼玉国体の開



会・閉会式のデモンストレーション、昨年は県FD連盟創立五〇周年大会(スーパリアーナ)など、踊りもさることながら、色とりどりのコスチュームは目を見張るものがありました。

年間行事としては

- ・五月市ふれあい福祉まつり
- ・九月頃市民体育祭FD大会
- ・十二月各サークルごとのクリスマスパーティー(大会)で交流
- ・新年会他

・県及び他の団体のパーティーなどに参加し、交流を深めています。

今後の目標としては、健常者と身障者の交流の場として車椅子ダンスの普及を考え、練習中です。

あと三年で市連盟創立三〇周年を迎えることとなります。

会員の増加を図りながら、地域に根ざした活動を目指し、意義ある三〇周年大会ができるよう願っています。

第58回川越市民体育祭 参加者

団 体 名	参 加 者					合 計
	少年・少女	青 年	女 性	壮 年	その他	
野 球 連 盟					252	252
卓 球 連 盟			180		247	427
ソフトテニス連盟	52	28	54	10	2	146
バレーボール連盟	120	130	235	380	65	930
バスケットボール連盟	820	800		400		2,020
サッカー協会	1,026	314	15	285		1,640
柔 道 連 盟	287	57	50	41	5	440
剣 道 連 盟	96	47	16	21		180
弓 道 連 盟	138	7	35	9	9	198
空 手 道 連 盟	132	5	5	25		167
陸上競技協会	490	15	1	12		518
水 泳 協 会	881	162	69	116	24	1,252
スキ ー 連 盟	10	7	15	51		83
クレ ー 射 撃 協 会				5	23	28
ライフル射撃協会		2	1	15		18
スケ ー ト 連 盟	20			1		21
体 操 連 盟	83					83
小学校体育連盟	860					860
中学校体育連盟	5,102					5,102
高校体育連盟	2,897					2,897
レクリエーション協会/民踊連盟			175			175
フォークダンス連盟			74			74
レク・リーダーズクラブ			20	8	15	43
インディアカ連盟		10	47	16	14	87
健康リズム体操クラブ			37		9	46
マレットゴルフ連盟	10		5	5	45	65
3 B 体 操 協 会	50		50	148	150	398
ターゲットバードゴルフ協会		16	28	34	69	147
バドミントン連盟		28	76	60		164
少林寺拳法協会	186	42				228
ソフトボール協会		197	137	2,169	1,013	3,516
テ ニ ス 協 会	77	650	394	240		1,361
ボウリング連盟	24	24	16	12	12	88
なぎなた連盟	4			24	23	51
ラグビーフットボール協会	320	42		50	3	415
ゲートボール連盟				20	100	120
グランドゴルフ協会			279	69	419	767
合 計	13,685	2,583	2,014	4,226	2,499	25,007

少年少女=小・中・高校生 青年=30歳未満 壮年=30~60歳 その他=61歳以上

第五十八回市民体育祭

■総合開会式

七月四日(日)川越市市民体育館を会場に、第58回市民体育祭総合開会式が開催されました。

体育協会加盟三十団体、三四十名の参加のもと、力強い入場行進が行われました。

舟橋市長の挨拶に続いて、参加者を代表して田邊新次郎さんによ

る選手宣誓が行われました。

■市民体育祭・町内体育祭

スポーツの秋、九月から十一月にかけて、各地区で小・中学校の校庭を会場として実施されました。

- ・実施自治会 一五六自治会
- ・会場 二〇会場
- ・参加者数 二〇、三六二名



陸上競技の部



剣道の部



野球の部



川越市スポーツ少年団創立30周年記念式典

川越市スポーツ少年団  
創立三十周年記念式典を終えて

二月五日(日)、スポーツ少年団創立三十周年記念式典が、市長、議長及び県本部長等の来賓を多数お招きし、出席者三百名のなか、式典(やまぶき会館)、祝賀会(氷川会館)が盛大に執り行われました。

永年にわたり少年少女の健康・体力の向上や育成に努めた単位団体及び活動に寄与した指導者への表彰が行われました。続いて「スポーツ障害について」と題する記念講演会が催され、三十周年にふさわしい記念式典となりました。ここに、ご協力いただきました方々へ深く感謝申し上げます。

**第13回川越市スポーツ指導者養成講習会**

**「自動体外式除細動器(AED)」を用いた応急手当法**

講師 川越地区消防局職員

◎心肺蘇生法

平成17年度「第13回川越市スポーツ指導者養成講習会」は、11月19日(土)・20日(日)の2日間にわたり、川越総合運動公園体育館にて実施されました。

本年度の講習会は、平成15年度に行われた普通救命講習資格取得者の更新と「自動体外式除細動器」(AED)を用いた応急手当の基礎知識や実技を行ない、併せて上級救命講習修了証取得に向けての講習会であり、次のような内容で実施されました。

【午後の部】

◎その他の応急手当の基礎実技

- (1) 傷病者の管理法  
ア衣服のゆるめ方  
イ体位の管理  
ウ搬送法
- (2) 骨折に対する応急手当
- (3) 止血法 等

【午前の部】

11月20日(日)



◎前日の復習(講義を中心に)  
◎AEDを用いた心肺蘇生法  
◎上級救命資格認定試験  
(筆記・実技試験)

以上の日程及び内容による講習会でした。

応急手当にはさまざまなものがありますが、特に心疾患(心筋梗塞や不整脈など)により突然に心臓が止まった傷病者の命を救うためには、心肺蘇生(気道の確保、人工呼吸、心臓マッサージ)を行うとともに、心臓への除細動(電気ショック)を速やかに行うことが求められています。日本では医療資格を持たない一般の人々が除細動を行うことは認められていませんでしたが、平成16年7月から一般市民による使用が認められ救急現場に居合わせた人が行う応急

**川越市スポーツ教室**

No.	対象	教室名	平成17年度参加者	平成16年度参加者	会場	
1	一般対象種目	ゴルフ	Aコース	15名	15名	プロスパー(上戸)
2			Bコース	15名	15名	
3			Cコース	15名	15名	
4			Dコース	14名	15名	
5		フットサル	29名	26名	総合体育館	
6		ソフトバレーボール	18名	34名	市民体育館	
7		ボウリング	19名	—	新狭山グランドボウル	
8		吹き矢	—	26名	勤労青少年ホーム	
	小計		125名	146名	—	
9	障害者対象種目	グラウンドゴルフ	20名	22名	川越運動公園自由広場	
	小計		20名	22名	—	
10	女性対象種目	バドミントン	21名	30名	市民体育館	
11		スイミング	37名	20名	川越スイミングスクール	
	小計		58名	50名	—	
12	ジュニア対象種目	スイミング	42名	41名	仙波小学校	
13		タグラグビー	—	21名	市民体育館	
	小計		42名	62名	—	
14	ジュニア・一般対象種目	スケート	第1回	76名	102名	東武川越スケートセンター
15			第2回	109名	76名	
16		卓球	第1回	54名	43名	市民体育館
			第2回	—	52名	
	小計		239名	273名	—	
17	親子対象種目	わくわく親子体操	1回目	30名	31名	総合体育館 他
			2回目	—	56名	
	小計		30名	87名	—	
	合計		514名	640名	—	

手当の中に、AEDを用いた除細動ができるようになり、本年度の講習会のメインとして行いました。なお、土日の2日間による開催やAEDという聞きなれない言葉、初めての講習ということでしたが、集中して充実した講習会でしたという声が多数の参加者から寄せられたことに心から感謝申し上げます。また、講習会終了後の11月30日付の新聞報道に川越市が18年2月から市内全公共施設にこのAEDを設置するという記事が掲載されましたが、今回の講習会はまさに、タイムリーな講習会だと思えます。今後もAEDを用いた講習会等が計画されると思いますが、スポーツ関係者だけでなく多くの市民の皆様が講習を受け、人命救助の一助となることを願っています。

(川越市体育協会指導委員会)

# 体育功労者 優秀選手表彰式

■期日 平成18年2月19日(日)  
■会場 やまぶき会館中ホール

〔体育功労者〕 5名

- 星野吉隆氏(野球連盟)
- 井部 衛氏(サッカー協会)
- 畑野富男氏(スキー連盟)
- 小菅泰平氏(ライフル射撃協会)
- 須賀 憲氏(スケート連盟)
- 〔平成17年度特別表彰〕
- ファイトマラソンクラブ

(代表 川又正夫氏)

〔優秀選手賞〕23部門312名



体育功労者表彰

## スポーツ講演会

■講師 シドニー五輪マラソン代表  
東洋大学陸上部監督 川嶋伸次氏

シドニー五輪に出場された後、東洋大学陸上部の監督になられ、部員五十名に初めてのあいさつの

## 活躍する選手たち

■ソフトテニス連盟 副会長  
・OTA所属 金尾 洋

・最近の成績  
「全日本シニア選手権大会」  
ミックス55の部 H15年第3位



川嶋伸次氏 18.2.19日(日)やまぶき会館

時、次の三点を話されたそうです。まず選手自身が変わること。そして、決心すること。変わっていく選手を認めること。その後は選手と個人的に話し合いをする中で集中・我慢・継続の三つを大切に陸上の練習時だけではなく、日常生活の中でも取り組むようにアドバイスをされました。スポーツを通して三つのことを得られたそうです。一つは自信が持てるようになったこと。そして感謝する気持ち、貢献する喜びが得られたこと。この三つを競技を通して選手たちに伝えていきたいという熱意溢れる講演でした。



- ・生涯スポーツとしての愛好者を増やすこと。
- ②大会目標
- ・県北3連覇
- ・全日本シニア選手権男子60の部ベスト8
- ・同選手権ミックス60の部優勝

### バスケットボール

#### 川越フレンズズスポーツ少年団

スポーツ少年団は、地域の小学校を母体としているものですが、川越フレンズは、地区内だけにこだわることなく、地区外あるいは市外といった、誰でも、どこからでも入れるような、受け入れ体勢をとって活動しているチームです。練習日は、週4、5日と、子供

ミックス60の部 H16年第3位  
「埼玉県北選手権大会」  
男子60歳の部 2連覇中  
・競技の魅力  
小学生から80歳位まで楽しめ、市内大会から全国大会まで開催され、好敵手と再会も楽しみ。健康 中学から50年ほど継続。入院知らずで毎日の晩酌は至福。  
・練習 現在5つのママさんクラブと1つの中学校の指導で週7日ラケットを握っている。今後の目標



みんなでガッツポーズ!!

### ファイトマラソンクラブ(スポ少)

1月28日インタビュー訪問  
クラブ育成の目標は

技術指導だけに偏ることなく、子どもたちの希望と夢に沿うように心がけている。部員たちの「心

達にとってはバスケットづけの毎日です。日頃の練習の成果として平成十七年一月に行われた県大会のトーナメント戦では、埼玉県で一位という成績を納めることができました。そして関東大会でも、ブロック優勝を果たし、小学生活の大きな宝物として、子供達は卒団していきました。しかし、それまでにはいくつもの試練がありました。夏のスポ少の県大会で準優勝したにもかかわらず、秋の県大会では一回戦負けと、まさに天国と地獄を経験しました。それでも子供達は、その悔しさをバネに猛練習を積んで、最後に最高の形で結果を残してくれました。本当に激動の一年でした。



- ・創立以来、33年間継続の名門クラブ
- ・昨年「文部科学大臣表彰」を受賞
- ・現在部員40名(年長組〜小6)
- ・会長 川又正夫氏 コーチ12名

## 編集後記

春、たけなわ。ご寄稿いただきました皆様にはますますご清祥のことと存じ上げます。今後とも、御指導、御べんたつの程をお願いいたします。(広報委員一同)

と体」の両面を育てていきたい。  
——活動日(練習日)は  
月々日まで毎日。平日は17時〜19時。土・日は、13時〜15時。  
——部員の皆さん。目標と抱負は  
先輩たちの記録に追いつく。  
・自己記録を少しでも縮める。  
・個人の記録も伸ばしたいが、チーム(駅伝など)の記録を上げる努力をしたい。  
取材当日の練習も真剣そのもの、そして和やかな雰囲気の中にも自己実現の道を確実に歩んでいる姿を見ました。そして、会長さんの「陸上(走ることに)に興味のある方の入部を待っています」の言葉に熱いものを感じました。